

ティーネのいいね！ドイツ

沼田市国際交流員が教えるドイツ

高校の卒業式

ドイツは連邦制のため、教育制度が州によって異なります。バイエルン州では6月の終わりに、高校の卒業式があります。先生たちはそのイベントを「卒業生の放免」と言います。日本の卒業式と違って、ドイツの卒業式にはマニュアルがなく、学校ごとに手続きも違います。例えばティーネの高校には82人の卒業生しかいなかったもので、卒業式は体育館ではなく、学校の真ん中にある大きいホールで行われました。ステージの前に生徒用の椅子が並べてあり、一番後ろに親や親戚が立っていました。校長先生のスピーチの後、生徒たちはアルファベット順に名前と呼ばれて、自ら選択した歌で、ステージに上がって、校長先生から成績書が渡されます。その手交はただの公式で、どんな成績で卒業したのかはもう明白です。数週間前、生徒たちには細かい成績書が渡されるのです。卒業式の後、パーティーがあるので、生徒たちはスーツや派手なワンピースを着ます。卒業パーティーはアメリカの映画やドラマでよくあるプロムみたいなものです。生徒たちはそのパーティーのため2年間頑張って、お金を稼ぎます。親や親戚もチケットを購入しますが、生徒たちの活躍によって、豪華なパーティーになるかどうかが決まります。最初のほうは社交ダンスをして、食事も摂りますが、社交ダンスから徐々にクラブのように変わっていきます。パーティーは朝まで続きますが、最後まで残るのは卒業生だけです。



卒業生の名前が印刷されているパーカー



アビトゥーア会場の様子

ドイツでは高校の最後の2年間は卒業成績に重要な影響を与えます。その2年間のテストや授業参加で得た点数と最後の大きい卒業試験「アビトゥーア」と卒業論文の点数が一緒になって、卒業成績が決まります。一番いい成績は900～823単位でもらう1.0で、300単位（4.0）以下なら卒業することができません。その2年間で全ての卒業生は一つのクラスになって、一緒にお金を稼いだり、おそろいのTシャツやパーカーを作ったり、卒業生のスローガンを決めたりします。卒業生専用の部屋まで用意されるので、高校生はその最後の2年間をすごく楽しみにしています。

Die Schule ist um!
(学校は終わったぞ!)



作者：クリスティーネ・バウアー（ティーネ）
問い合わせ：c.bauer@city.numata.gunma.jp
👨‍🍳 クックパッド：沼田市のキッチン